

令和4年度沖縄県全島緑化県民運動ポスター原画コンクール 審査講評

【審査員長 総評】

知花 純二 審査委員長 （県立小禄等学校 美術教諭）

コロナ禍が続く中、今年度は169点の作品応募があり、昨年度と比べ増えていることに、児童・生徒の頑張りが伝わり、うれしくなりました。今年度のテーマは「君の手でひろがる緑 つながる未来」となっており、テーマからイメージを膨らませた作品が多くありました。

小学生の部では、学年によって捉え方や感じ方に違いはありましたが、今までの自然体験の中で、心に残った場面をのびのびと表現しているように感じました。

中学生の部では、テーマから、自分の思いやイメージを表現する作品が多い印象がありました。

高校生の部では、テーマをしっかりと理解し、新たな視点で見つけた形や色のよさを工夫しながら表現しようとしている作品が多いと感じました。

自然体験の中で、多くの種類の生き物が関わり合いながら生きていることを知り、絵を描きながら自然の素晴らしさを再発見してもらいたいと思います。

【小学生の部 講評】

大城 直也 審査委員（南城市立玉城小学校 校長）

「君の手で ひろがる緑 つながる未来」のテーマのもとたくさんの作品応募があり、わたしたちを取り巻く環境の中に緑と花とおきなわを感じさせる作品と関わることができうれしくなります。

最優秀賞に選ばれた宮古市立西辺小学校 安里基治さんの作品は、私たちの住む地球を土台にガジュマル樹が生き物の環境を見守っている様子が力強く描かれている。その周りに色鮮やかな花々や小動物の活動が描かれ、ガジュマルの力強さとそこで生きる生き物の様子から自然を愛する心情を描いています。

優秀賞を受賞した。恩納村立恩納小学校 當山紗彩さんの作品は、大きなガジュマルの木が小さな苗から月日を重ねて、成長する過程が描かれ、人と自然との大切な関わりにガジュマルが深く関わっていることを描いています。

同じく、優秀賞を受賞した。名護市立安和小学校 山田ノアさんの作品は、私たちの生き物のよりどころに大きなガジュマルが関わり自然との共存の大切さを描いています。

【中学生の部 講評】

酒井 織恵 審査委員（沖縄県造形教育連盟）

沖縄県全島緑化県民運動ポスター原画コンクールの審査会場は、緑で埋め尽くされてさわやかな風を感じるような会場でした。児童生徒にとって、木々の緑は日常的に身近なものであり、かつ幼いころから発見の連続だった世界を意味していると思います。自分にとって大切な緑や植物、自然の世界を描こうという思いが作品から溢れていました。

最優秀賞に選ばれた3作品に共通したのは、対象を丁寧に見つめる視点だったように思います。浦添中学校の吉濱太耀さんの「緑育む」は、夜に美しく咲くサガリバナを引き立てるような闇と、水辺とも星空とも見える水色がうまく構成されていました。うんな中学校の比嘉笑里さんの「自然との共存」は、描き込んだ動物たちの存在感がメッセージ性を高め、見る人を惹きつけました。寄宮中の宮里一史さんの「緑のトンネル」は、近景、中景、遠景を意識した構図、木の隙間から見える海と空の濃淡を描き分けた色への意識が見て取れました。揺れるように歩く人物や、空に描かれた飛行機雲からも作者のユニークな仕掛けを感じました。

一つ一つの作品に作者の世界観があり、工夫がありました。作品を描いた楽しかった時間の記憶を心に留め、やりたいことへ挑戦するエネルギー源にして欲しいと思います。

【高校生の部 講評】

知花 純二 審査委員（県立小禄高等学校 美術教諭）

テーマをしっかりと理解し、伝えたいメッセージを、形や色彩、構図を工夫しながら描かれている作品が多くありました。

最優秀賞を受賞した大城花夏さんの作品は、自分たちの手で木を育てたいという思いを、新芽に水やりをするじょうろと、それを見守るカエルと蝶を色彩や構図を工夫しながら描かれており、今年度のテーマを理解したすばらしい作品でした。優秀賞の新垣理胡さんの作品は、新芽と対比するように大きな木を遠近法を使って描き、大きさと動きが見事に表現されていました。同じく優秀賞の崎山里瀬菜さんの作品は、次の世代につなげる様子を、バトンを受け取る手で表現し、色数を絞ることで、作品のメッセージを力強く感じさせる印象的な作品でした。

特別支援の部では、優秀賞の神田一耕さんの作品は、葉や木の幹の色を工夫することで、木が元気に見える作品でした。同じく優秀賞の當間日向さんの作品は、画面の中央に大きく木が一本あり、木の周りを葉が舞う様子が描かれており、木に対する印象を表現した作品でした。

作品を描くことを通して、自然に対する関わり方や考える機会にして欲しいと思います。次年度も緑化運動を高めるような意欲的な作品を期待しています。